

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

長野都市経営研究所

Vol. 6

2000.MAR

発行日 / 2000年3月1日(年4回)

長野都市経営研究所

発行 / 長野都市経営研究所 〒380-0936 長野市岡田町178 長野バスターミナル会館3F TEL 026-223-7900 FAX 026-223-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

セントラル・スクウェアにてカウントダウンイベント開催。 NUPRI有志を中心に運営されたカンテラリレーも大成功。



1999年12月31日、長野冬季オリンピック表彰式会場として市民の皆さんにも親しまれたセントラル・スクウェアにて、カウントダウンイベントが開催されました。長野朝日放送(ABN)が、夜10時から翌日朝まで同所を借りて開催したミレニアムイベントの内11時30分から0時30分までの時間帯をお借りして、NUPRI有志によって、2000年のこのイベントの一部を担いました。

事前に新聞などで募集した一般市民の参加者1000人によって、善光寺からいただいた火をカンテラに載せ、手渡しでセントラル・スクウェアに運び、0時丁度に聖火台に点火しました。庶民信仰の対象である善光寺さんから火をいただき、聖火台に点火される事で、オリンピックメモリアルとしてのスクウェアから、



市民みんなに愛される憩いの場として変わって行くという意味があります。この1000人のカンテラリレーは、NUPRI会員の田中精一さんが部長として指揮し、青年会議所メンバーを中心とした70名近いボランティアによって運営されました。CSに着した火は、丸田、宮島両会



員によって聖火台設置実行委員会の仁科会長と鷲澤実行委員長へ手渡しをされ、その後、女性に引き継がれ、聖火台へ点火されました。点火と同時に、当日会場に集まった約5000人の市民の皆さんの歓声がとどろき、地響きが起こったかと思うほどでした。事務局長の竹村さんには、皆さんから「苦勞サン」といった労いの言葉が掛けられておりました。

点火の後は、塚田まゆりさんがステージに乗り、輪になって踊ろうなどのダンス指導をされ、参加した皆さんで踊りました。お楽しみ抽選会の後、ステージ上でダンシングクスタジオブロードウェイの皆さんによってすばらしい踊りが披露されました。12時30分を過ぎた頃から、だんだんと雪がふってきて、たくさん参加者の人々が、満足そうに家路についたり、2年参りに出向かれたりしておりました。



事務局長の竹村さんを始め、多くのNUPRI会員がこのイベントに参加され、活躍されました。ご協力いただいた会員の皆様方に、心から感謝申し上げます。

そもそも、このイベントは、聖火台をセントラル・スクウェアへ設置しようとの動きから始まったものでした。聖火台を設置したことを、効果的に市民の皆さんにお知らせしたい。そのためには、どうしたら良いんだらうかと、思案していたところ、2000

年への年越しにカウントダウンで、点火をしては、どうだろうかという事になりました。この狙いは、上々であったと思います。なんといつても、あれだけの人が集まったんですから。ABNやアドビユーロの方々、企画力によれば、これだけの人が集められるんだなと感心しておられました。

何はともあれ、大成功にイベントは終了しましたが、財源の柱であるミレニアムピンバッチが、在庫で残っております。会員の皆さんのご協力をいただきまして、完売できるように、事務局でも努力しなくてはなりません。宜しくご協力の程お願い申し上げます。

上信越道が全通した今、魅力ある街づくりを行うには。

上越の宮越市長を迎えて

11月25日、第2部会7回目の勉強会として、長野に非常に縁の深い上越の宮越市長をお招きしました。上越市が今までやってきたこと、これから目指していくこと、市長さんの考えていることなどを話いただきました。非常に有意義な時間となりましたので、この模様を「報告します」。



ております。行政も経営感覚でやっていかないといいと思います。違うのは私も税金で運営しているということ。皆様に様々な負担をしていただいているのですから、無駄なことではできません。ですから私も、行政の在り方も、安い、近い、短い「安近短行政」を行っています。「安」はコストを安く効果を大きくということ。「近」は開かれていて市民との距離がない、身近に市民に接していられるような行政執行体であること。「短」はスピーディーにタイムリーに政策を打ち出して実行すること。こういうスタイルがいいと思って、今取り組んでいます。

先月、上信越道が全通しました。市長さん曰く「これはバリアが取れたんだ」と。中郷から上越まで20キロ、時間的には10分程度なんです。確かに私もそう思います。長野市と上越市を足すとちょうど人口50万人、その周辺を入れると100万人になります。そんなところで新しい連携がこれからの形生まれていくと思います。市長さんは非常に有能で、例えばISOもおそらく行政で初めて取られました。その他にも副市長さんを6人、そのうち2人は公募してお取りになったという非常にユニークなことをやっておられます。今日は楽しいお話をお聞きできると期待しております。宜しくお願ひします。

「安近短」の行政を行いながら、地方分権を目指す

皆様方は民間会社を経営されており、むしろ私の方が皆様に学ぶところがあるのではと思っ

地方分権ということ、中央の権限や財源を地方に分け与えるという上下関係のイメージが強いですが、しかしそういうものではなく、お互いに役割分担をする、権利を分かち合うという対等協力の関係なんです。ところが地方では、主体性をもって自主的に政策立案をして、自己決定自己責任というところまではできるんですが、自己負担というところが抜けているんです。分権といいながら実際は、お金がないからちよっだいという。こういうところを直さなければいけないと思います。中央にも相変わらず明治政府以来の中央集権体質が残っています。中央分権といって法律までつくったんだから意識が改善されているはずなのに、今回の介護保険の見直しみたいな、根幹に触れることは勝手にやっってしまう。意識は変わっていないんです。両方からよい国をつくっていくかなければいけない。我々も対等意識の中で、地方からどうやって国づくりするかという基本的な考えを中心に据えていきたいと思っています。

副市長制、フレックス雇用、ISO取得などアイデアあふれるシステムを導入

上越市では、副市長制を導入して、中間管理職を排除しました。部制を廃止して、リアルタイムでサービスを行い、住民からのニーズがフイードバックしやすいような形を取ったんです。同時に組織全体をスリム化しました。今まで10の職階がありましたが半分になりました。権限と責任を明確化しました。そして、決定した執行段階の権限を副市長に任せたいです。その下に現場の責任者である課長を置く。現場行政が機敏に動けるような体制をつくらせてそこに政策を流す。末端から市民に接して、そこからまた逆の情報を集める。心臓に政策審議局をつくらせて、循環型組織にしました。そして来年4月には、組織内シンクタンクをつくりたいです。今までのシンクタンクは財団法人に何億も出して基金を積んでスタッフを集めて行うケースが多いんですが、実際の行政に反映させるには組織内シンクタンクの方がいいんです。これで一つの地方分権型の行政執行体制が完成し、人権費が約3億円浮きます。また、フレックス雇用も行っていきます。午前中で済む仕事と午後だけで済む仕事、夜だけで済む仕事については、それぞれに人材を当てはめる。正職員ではないので、退職金や手当を払わなくていいんです。特別採用職員ということ、既に昨年12月からやっています。また、終身雇用は悪いということではないのですが、問題は年功序列だと思っんです。だから、任用試験、登用試験などいろいろ人事考課で差を付けています。フレックス雇用と人事考課、民間では既にやっていることでしょ。うが、我々も甘い体制に甘んじることなくやっいていこうと取り組んでいます。

更に、価格系事務管理を導入しています。このために考えついたのがISO、PDCA。目標、実行、評価、改善を繰り返すというシステムです。数値的、価格的な事務処理を、できるようにやるといって執行体制に加えて、仕事の仕方も改善を加えてやっています。今、大変々々として活性化しています。また行政には、民間とは違った多様性があり、その中でわかりにくいのが予防行政です。災害や事故など、発生した後に膨大な費用がかかることに、ちよっ

とした手当をしておくということですね。予見をしたら、それを決断して実行するノウハウ、才能がないといけない。東海村のような事故はISOシステム、PDCAをきちっと導入しておけば起きなかつたんです。行政もいつてみればベンチャービジネスです。いろんなアイデアを駆使しながら、従来の発想に囚われずやっていこうと取り組んでいます。アイデアを後追いつ的にやっていくとまずい場合もありますし、無駄な支出になる場合もあります。民間と違うのは、採算性のないものもやらなければならぬところ。それを投資とどううまく兼ねあいやっていかは、まさに経営だと思っんです。

人を育てることが素晴らしい結果につながる職員を中央官庁や県庁、民間に派遣

地方自治体は結局は井の中の蛙なんです。いろんな変化があつても反応が鈍く、大海を知らないという欠点が年々顕著になっていく。やっぱり大局感とか大海を知ることが大事だと思っんです。ただ、今の自治体のサイズでは無理です。そこで、当面は外から人材を求めると





住民参画型のプランを作成 時間軸を見て戦略的に街をつくる

上越市では住民参画型のプランをつくりました。147名の能力を持つ市民の代表が集まって、自分たちの街は自前でつくろうと、街づくり会議を興しました。背景として抑えたのは歴史とストーリー性です。上越は1000年以上前から栄えています。そういう歴史を抑えて、そこからどういう形で今日あるかということとを紐といていくと、この街は将来どんなふうを整備、発展させていけるかが見えてくるんです。正に温故知新、過去を振りかえることで将来を見るという時間軸の見方をしました。そして長期プランとして、30年後を見ました。30年というのは今生きている人たちが平均30年くらい生きていけるだろうという年数、つまり裏を返せば、責任を持てる最長の年数なんです。通常はどっかのコンサルタントに任せて、でき上がったらそれで終わり。コンサルタントが儲かるだけで意味がない。役所の担当者が知っている程度で、その担当も変わってしまうとわけがわからなくなってしまう。担保性があるために市民参画を仕掛けたんです。そして、細かい長つたらしい文章を避け、写真や絵を入れたプランをつくりました。プランをつくったことで大きく動いたのは新幹線です。いったんダメになった話もまた再浮上して、既に着工しました。港もいよいよ着工しました。時間軸を見て戦略的に街をつくれれば、結果的に民間の方も迷いが払拭されると思うんです。例えば、10年後に新幹線が開通するからそのタイミングに事業展開しようとか。街づくりを民間との関連において行うことは大変有益だと思います。

観光資源をお互いに活用するために、 高速道路沿いのエリアが一体となる

上信越道全通に関しても、常にグローバルに大局的に物事を見て、この変化を先取りして対応していかないといけないと思います。今はこういう経済社会ですから、割と時間的余裕があると思います。バブルのときのようにならぬように投資することはない、様子をつかがいながら冷静に対応していいときだと思っんです。消費者も

そういう動きをしています。消費者は2年も3年も儉約して、そろそろ財布の紐を抑える力もくたびれてきている。この、財布の紐を緩めはじめている人をどうつかまえるかがポイントです。従来と違って、消費者は相当賢沢になり、様々な情報を持っています。例えば、観光地はあんまりテカテカ、ピカピカにしない方がいいと思うんです。日本人は古さを好みます。変える時は古さを漂わせながら便利さを取り入れる。どこへ行っても同じだと飽きてしまう。あまりよくしてもいけないし、そこにしかないものをどうつくるか。そこに消費者、観光客のニーズがあるとします。

高速道路ができて、行動範囲が広がり、観光客は、今まで1ヶ所しか行けなかったのが2、3ヶ所に行けるようになりました。そこで、動きやすいようなネットワークをどう組むか。自分のところは自分でという1点豪華主義で頑張っていくのはもう古いと思います。上高地が土砂崩れで一時通行不能になったとき、観光客は他の場所に行ったかという行かなかつたらいいんです。つまり1点ダメになると他の場所も連鎖的にマイナスを受けるんです。長野だったら長野県に大勢来るといことが大事で、自分のところだけに呼ばうと思っるのは大間違い。回遊性があるということが大切です。行政も、観光資源をお互いに活用するという視点でやっていくのが、高速交通時代、情報化時代だと思います。北信と上越はどういう連携をしていくかといえば、持っていない個性をお互いに連携することです。上越には海、米、酒、魚がある。北信には、山の幸や高原があり、文化性が優れている。上越と北信を一体エリアとして考えると、一つのエリアに違つたコンセプトがあるんです。これから北陸、関西の人たちも徐々に増えてくると思います。北陸や関西にない味わいが北信にも上越にもあるんです。県境は一つのバリアだったんです。このバリアが高速道路で取れる、新幹線でもと取れる。軽井沢からずーとと高速道路沿い、新幹線沿いに一つの連携軸、一つの圏域が構成されるんです。連携というよりは一体ですよ。

新潟に住む人にとって魅力的な北信をつくるにはどうしたらいいか。冬の上越はジクジクして、うつつしい。それをカラツとした信州へ

どう引っぱっていくか。ここがヒントになってくるような気がします。その落差、違いを戦略的に組み立てる。スキーだけじゃなく、エムウエープのスケートや美術館めぐり。そして夏は、さわやかな高原があるということ売り込むことではないか。気象状況の変化を戦略的に使っていくことがポイントだと思います。ちなみに流通、物流関係では、長野の方には、直江津港の物流全体の1割くらいしかお使いただいていないんです。今、コストは陸送が非常に高く、海路はどこともそんなに差がないんです。陸送と海上輸送コストを足すと、直江津からなら外国へは約3分の2で行けます。海洋レジャーは以前からありますが、港も意外と使い易い、コストが安いということに気付かれるはずですよ。これからも上越市と北信地方、いろいろな面で連携を強化してお付き合いしていきたいと思っんです。よろしくお願ひ申し上げます。

(まだまだこの紙面では紹介しきれないほどたくさんのお話をいただきました。宮越市長さん、本当にありがとうございました。)



小学校統廃合と跡地利用、最善策はいかに!?

「コムネット」に出されている意見より

コムネットでは、小学校統廃合と跡地利用について、活発な意見交換が行われています。その中の一部をご紹介します。以下の「意見」についてなど、他の皆さんからの書き込みもお待ちしております。

城山小学校PTA会長 塚田芳樹氏(2月2日)

昨春秋、山王小、後町小、鍋屋田小の統廃合の問題は一応結論が出され、今後は城山小と加茂小について議論されることになっているのは承知の通りです。この二つの学校の跡地を利用考えたときに、中央通り、善光寺に近い」といつかは城山小の跡地が圧倒的に利用度が高いのは明らかだと思えます。しかし城山小を廃校にして跡地をどのように活用するかということに議論を移したときに「現段階では全くの白紙」といつか気がかりになります。以前中心市街地がなぜ元気がなくなってしまったのか議論されるときに「善光寺の裏に駐車場をつくってしまったことが一因」と言われました。これを考えれば、城山小が廃校になった場合、駐車場にだけはすべきでないと考えます。しかし跡地を何に使つか「現段階では全くの白紙」ということは「中心市街地の駐車場の未整備」を理由に「駐車場」という選択肢も当然含まれていることが引っかけられます。この問題を考えるときに「生徒の親」としての感情を出してはいいのですが、たまたま結論が出ません。感情論は捨て、長野市の10年先、100年先の繁栄を考えるとが大切だと思っています。また、「廃校ありき」で「利用方法はそれから」という決め方にも疑問を感じます。城山小の跡地にはこの施設が必要でそのために敷地を提供してほしいというのなら、関係者の理解も得やすいと思えます。

「コムネット」推進委員会 中嶋秀磨氏(2月8日)

僕は、廃校選択、跡地利用という議論の順番になっているのかわかりませんが、おそらく教育委員会管轄の土地を別の課が先に後利用計画を立てることは業務上難しかったのではないかと考えます。「現段階で白紙」なら、私たちが議論に拍車をかけ、委員会等に提言できる可能性があるのではないのでしょうか?

NUPRI理事長 鷲澤正一氏(2月9日)

城山小のPTA会長、塚田芳樹君の意見は、(1)そ

の敷地が次、何になるのかということの提案がないままに決まることは納得がいかない、(2)城山が駐車場になるのは抵抗がある、というこの2点だと思えます。(1)については、数年前、この委員会でも後利用を提示すべきだという意見が出されました。長野市当局でもプロジェクトが組まれ、いろいろのテーマがアイデア的には出されましたが、具体的には空地がどこになるかが決まらない限り結論は難しいというのが、結論でした。(2)については、今後十分議論すべきことと考えています。仮に城山が学校敷地にならなかつた場合、城山小、NHK跡地、市営グラウンド、護国神社あたりまで、市民憩いの場として、美術館を中心に緑地公園遊園地(勿論駐車場も含まれるとは思いますが)としたらどうかは思っています。いずれにしても簡単に結論の出る話ではない、でも黙っていたのでは何も意見は反映されません。

城山小学校PTA会長 塚田芳樹氏(2月11日)

今考えますと統廃合の問題は、街づくりのグラウンドデザインも併せて考える必要があることを、我々学校関係者も声を大にして主張すべきだと思います。現状では「小学校の適正配置」の必要性についてもまだに保護者の間に十分に理解がゆきわたっていません。これも反省すべき点だと思います。私は立場上、城山小の敷地には是非学校を残していただきたい旨を主張すべきだと思っています。仮に城山小が学校の敷地として残らない場合は、今度は城山小PTAとして「城山小関係者の思い」が残せるような跡地利用について提言をすべき、企画段階から声をあげていくべきだと考えています。

宮本忠長氏(2月14日)

私も以前「善光寺周辺環境整備計画」として善光寺周辺の整備案を提言しました。東京大学・鈴木博之教授(建築史家)・東和大学・若林時郎教授(建築計画家)のお二方と意見を交え、提案させていただいたレポートを添付致します。(レポートより抜粋)

城山公園/城山公園一帯の中での総合設備の提案として、城山公園内の遊覧遊園地型の諸施設は取り除き、県立美術館、東山魁夷館をもとに園内を整備し、更には日本を代表する仏教美術研究施設を園内に配

列することが好ましい。蔵春閣の城山公園内移転NHK跡地・市営球場跡地・彦神別神社・城山小の利用法も併せて検討していく。

都市環境・交通/善光寺参詣者、城山公園方面利用者、中央通り商店街利用者のために公共公営大駐車場群を開発することが必要不可欠である。試案として、次の三案を提案する。

(a)集合駐車場:城山公園の台地とその南方下部にあたる落差20~25mの傾斜地を有効利用した駐車施設群。

(b)東町観光バス駐車場:東町周辺道路計画の改造及び一部路上広場を利用した観光バス駐車場。

(c)セントラルパーク駐車場:現在のセントラル・スクエアの位置は、後町小までを対象エリアとしたセントラルパークをつくり、地下に駐車場を設置する。

土屋磯司氏(2月15日)

当方も中央通りで戦前から店舗を開いている者であり、日を追って減少する通行客を目の当たりにして参りました。加茂小と城山小のどちらかという問題ですが「通学する生徒の都合」はいつか問題ではないでしょうか。私の自宅は加茂小に近いので、情としては加茂の肩を持ちたいところです。しかし「善光寺さんの近くで勉強したい」という事実は、彼女の(彼の)(将来に何かよいことがありそうな、そんな気持ちにはならないでしょうか。更に申し上げたいことは、跡地の利用度の高さだけで「統廃合」の議論を進めてはならないということです。また「善光寺裏の駐車場」だけが中央通り活性化のキーワードではないと思っています。遠い道のりを車ですべて来てくださった観光客の方々を中央通りの中ほどの駐車場に降ろして、善光寺さんまで歩いて行きなさいというのが、本当の観光サービスとも思えないのです。お客さんが自ら「是非ここで降りて、買い物したい、善光寺さんまで歩いて行きたい」とおっしゃるような街の様子にしたいものです。

城山小学校PTA会長 塚田芳樹氏(2月16日)

「通学する生徒の都合」ですが、どちらに決まっても廃校になった生徒達にとって学校が今までより遠くになってしまうことは事実です。問題があるとするれば城山小は飯綱地区の子供達がバス通学、加茂小では小田切地区の子供達がバス通学しているため、この子供達はどちらが廃校になっても負担が大きくなると思います。「善光寺さんの近くで勉強したい」または「小学校で地域とともに学んだ」ということは、今後一

編集後記

NUPRI NEWSの発行が、たいへん遅くなってしまいました。言い訳をすると、事務局や広報委員会の皆さんが、年末カウントダウンイベントで忙しくなってしまったからです。そもそも、あのカウントダウンイベントは、聖火台を設置した後、皆さんにご披露するタイミングを測っていたところ出てきた案でした。瓢箪から出てきた駒が、こんな大変なイベントであるとは想像していませんでした。良い勉強をさせていただきました。当日は、オリンピックの時を彷彿させる程、沢山の方に集まっていた、素晴らしいイベントが開催されました。本年、昇り龍の景気上昇を願っている者として、相応しい年越しでした。さ~って、編集後記も書き終わったんで、カウントダウンイベントの聖火ピンバッチを販売しに街に出よつと。

COMNETは、長野青年会議所が主催しているまちづくりに関する電子会議室です。下記の方法で長野市のまちづくりに対して、建設的なご意見をお持ちの方なら年齢性別を問わず参加する事が出来ます。電子メールを受発信出来る環境であれば特に費用は掛かりません。NUPRIでは、会員の皆さんで電子メール環境の整っている方について、COMNETにも登録させて頂いております。今回は、同NETで、繰り広げられた小学校統廃合の問題について、掲載いたしました。

なお、お知合いの方で、参加希望の方が居られましたら、下記のメールアドレスへご連絡下さい。こちらから利用規約とメンバーングリストのアドレスをお送りいたします。

(社)長野青年会議所コミュニティ推進委員会
njc2@avis.ne.jp
COMNETのホームページは以下のようです。
宜しければ、ご参照下さい。
COMNET URL <http://www.avis.ne.jp/~njc2/>

層重要になってくると思えます。城山小学校は、善光寺という格好の教材を利用し、善光寺に関わる地域の人々の協力を得て、他の学校では体験することのできない学習をすることが出来ます。

城山小だけでなく、加茂小、城東小ともに、生徒数に関しては現時点では経営上全く問題がないので、議論が逆戻りになってしまつことは承知の上で、あらためて後利用の議論を充分し、どちらを廃校にするのが、廃校にする必要はあるのか、もしそつだとすればどちらなのかを議論できることが可能になればと思つていきます。